

「没後1周年 森村誠一展—『^{ミステリー}小説』を生きた男の肖像」

の実施報告について

- 1 開催期間：2024年10月19日（土）～12月22日（日）
- 2 開催場所：町田市民文学館ことばらんど2階展示室
- 3 観覧者数：2,963人【有料：1,363人】／55日間
(1日平均：53.9人【有料：24.8人】)
- 4 観覧料：一般600円 大学・高校生300円 中学生以下無料
- 5 協力：公益財団法人角川文化振興財団、幻冬舎

6 開催報告

2023年に90歳で逝去した作家・森村誠一の没後1年に合わせ、社会派推理小説を初め、ルポルタージュ、時代小説と400タイトルにも昇るエンターテインメント作品を発信し続けたその生涯を、代表作を通じて顕彰する展覧会を実施しました。

本展では、ふるさと納税を活用した開催経費の調達とプロモーションを実施したほか、展示室内で開催された謎解きイベントの正答者に森村氏旧蔵書を贈呈するといった、市民が展覧会に能動的に関わることができる仕掛けを用意しました。また、展覧会開催中には、観覧者が興味に応じて選択できるよう、講演会や映画上映会など多彩な関連イベントを用意しました。

映画、テレビドラマ、漫画と多彩なジャンルで展開される森村作品は、実は「原作を読んだことがない」という愛好者も多く、この展覧会鑑賞を機に「改めて作品を読んでみようと思った」という声も多数寄せられました。

(1) 関連事業

実施日	タイトル	参加人数
7月1日～ 9月20日	「ことばらんどショートショートコンクール 2024」に「森村誠一賞」を設置	1,149
11月1日	大沢在昌講演会「ミステリーと私」	55
11月2日	中川右介講演会「角川映画 メディアミックス時代の夜明け」	21
11月3日	映画上映会「人間の証明」	99
11月4日	TVOD（コメカ&パンス）×多田洋一 「森村誠一のいた 1970～80年代 角川文化をめぐって」	18
12月1日	ケルンの会「わたしたちの森村先生！ 知られざる创作者の素顔」	25
11月30日	映画上映会「野性の証明」	102
12月7日	大野茂講演会「森村誠一のいる 2 時間ドラマ土ワイ&火サス全史」	53
12月15日	朗読劇かわせみ座「雪の絶唱」	51
10月20日 11月17日 12月22日	展示解説	19
		28
		43
12月7日 12月17日	展示解説（追加）	5
		15
10月15日～ 11月10日	写真俳句コンテスト	301
会期中	謎解きイベント 「森村誠一からの挑戦状」	1,370

(2) 資料

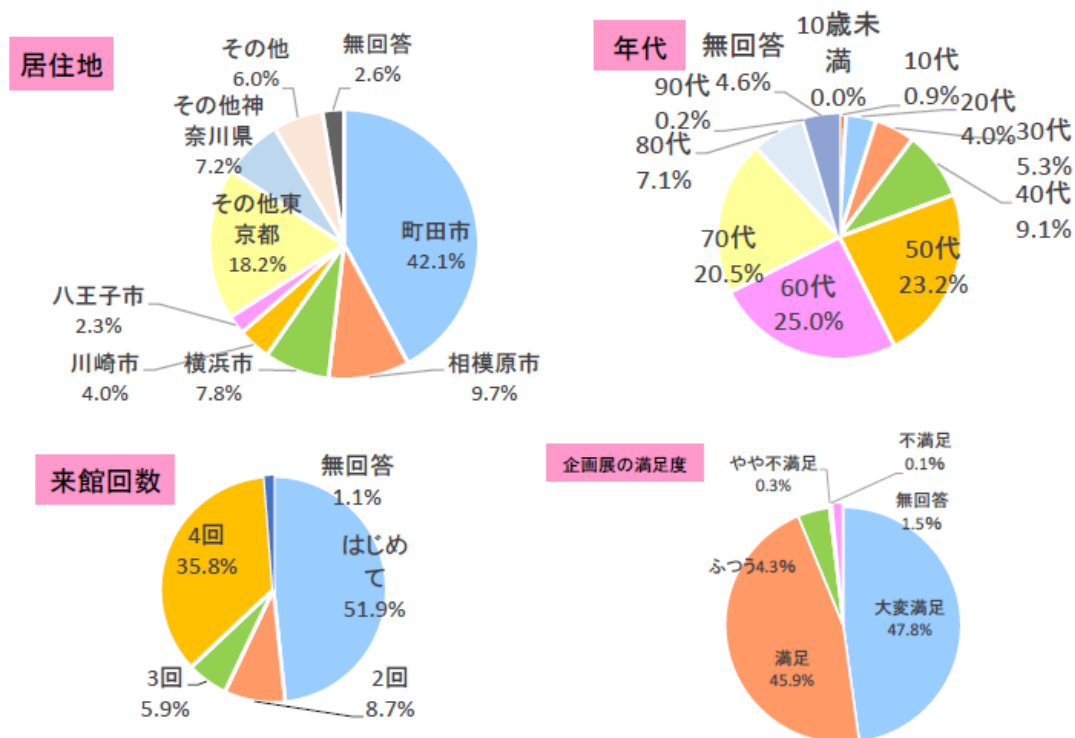
自筆原稿やプロットの書かれたノート、書籍、愛用品など当館所蔵資料を中心に、新たに森村家から借用したテーマ別に資料を収めたキャビネットや書棚、取材手帳、調度品や油彩作品、熊谷市立図書館から借用した書籍、個人所有の都市模型など約 200 点

(3) パブリシティ

- ・NHK首都圏放送局ニュース 展覧会紹介
(放映日：11月9日(土) 午後12時20分／午後6時30分)
- ・「日本推理作家協会」会報誌
- ・「あなたと青山学院」青山学院報
- ・毎日新聞、読売新聞、埼玉新聞
- ・雑誌「東京人」
- ・「東京新聞」(有料広告)

(4) 来館者アンケート

居住区分では町田市民が42.1%と割合が高く、没後間もない地元作家への関心の高さがうかがえました。年代は60代が25.0%と最も多く、次いで50代(23.2%)、70代(20.5%)となり、映像化もされた作品「人間の証明」や「野性の証明」が大ヒットした時期と重なる世代が主な観覧者となりました。観覧者の93.7%の方から満足の評価を得ることができ、「著書の多さに大変感動しました。もう一度振り返って読みたい」「あらゆる分野を題に取り、人間味豊かな作品が好きだったが、もう一度再読したい」「森村誠一の人間性に惹かれる」「エレガントなたたずまいで格好良い」等、展覧会をきっかけとして、再び森村作品に触れてみたくなった、作家としての生きざまに魅せられたという感想が多くありました。



展示会場風景

